

第55回

人権交流京都市研究集会

2024年2月24日【土】 午前9時半～

会場 京都テルサ (テルサホール他)

全体会 午前9時半～
京都テルサ (テルサホール)

分科会 午後1時半～
京都テルサ (セミナー室 / 中会議室 他)

参加費 2,500円

※事前にお弁当を申し込んで下さい (800円)

*分科会 ①部落と人権 ②部落の歴史
③多文化共生 (講演と東九条周辺フィールドワーク)

◆全体集会 記念講演

朴 実 さん (京都・東九条CANフォーラム)

「共に生きる社会を求めて～東九条マダンに託す願い～」



歌 ハンマダン

演奏「ワダサム」

(サムルノリ:ハンマダン+1、和太鼓:「怒涛」)



「多文化共生と人権尊重」その標語は近年多く口にされ、私たち自身何度もその決意を新たにしたりはしながら、この世界では、現実に相手を同じ人間と認めず、力によりねじ伏せ亡きものとする意志が、時として巨大な軍事力を持つ国として発動し「戦争状況」を招いています。子どもや女性たちが無慈悲に殺戮される現実を目にするとき「共生」という言葉がむなしく響く場合もあります。そんな現状への反旗も込めて、今回の全体集会では、1944年に在日朝鮮人として東九条地域に生まれ育ち活動を続けてきた朴実さんから、その人生において一貫して多文化共生を訴え続けた実践を講演していただきます。朴さんは、日本人女性との結婚に際し、日本への「帰化」を余儀なくされつつ、そのことで失われた民族名を取り戻す闘いと同時に「東九条マダン」や「CANフォーラム」の立ち上げなど、「共に生きる」願いを具体化しながら歩いてこられました。1993年にはじまった東九条マダンでは和太鼓とサムルノリの共演「ワダサム」が祭りのクライマックスに欠かせない演目となっています。空疎ではない言葉と音とリズムで「共に生きる」を体験し、一人一人の「熱」が世界を変えていけるという希望を共有する機会にしたいと思います。

主催 第55回人権交流京都市研究集会実行委員会

京都市小学校同和教育研究会 京都市立中学校教育研究会人権教育部会
京都市交通局部落問題研究 京都府庁部落問題研究会 京都市職員部落問題研究会
京都・東九条CANフォーラム 部落解放同盟京都市協議会

後援 京都府 京都府教育委員会 京都市 京都市教育委員会

京都市PTA連絡協議会 京都人権啓発企業連絡会 部落解放同盟京都府連合会

第55回人権交流京都市研究集会

日時 2024年2月24日【土】
全体会＝午前9時～正午(受付開始 午前9時)
分科会＝午後1時30分～4時30分

場所 全体会＝京都テルサ (テルサホール)
分科会＝京都テルサ (テルサホール/セミナー室/
中会議室+フィールドワーク(東九条地域周辺))

京都府民総合交流プラザ 京都テルサ 京都市南区東九条下殿田町70番地▶

参加費 2,500円 ※弁当は2月9日までに事務局にお申し込み下さい (800円)

◇参加を希望される方は、各団体または事務局にお申し込み下さい。
当日会場に直接お越しいただいても参加できます。



● 分科会案内 ●

第1分科会 部落と人権

会場

テルサホール

～貧困化がすすむ社会の変化と排除に抗する公立学校の底力～

分科会の前半は、大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類 教授の西田芳正さんの講演をお聴き頂きます。西田芳正さんは、貧困化がすすむ日本社会の現状と子どもの育ちについて研究され、公立学校が担う役割と教師の力についても提言されています。大阪公立大学の公式ホームページには、研究テーマを不平等の世代間再生産と学校教育、社会的排除、貧困・生活不安定層の生活文化、部落問題。と記されています。ご講演では、社会の変化と排除に抗する公立学校の役割を中心に、さまざまな視点から提言や示唆を頂きます。分科会の後半は、パネルディスカッション形式で展開します。京都市内の小学校・中学校の教員などのパネラーと共に西田芳正さんにもパネラーに加わって頂き、公立学校が果たす役割について考え、教員の実践を交えて紹介しながら議論します。21世紀は人権の世紀とよばれ、多文化共生社会の実現が求められる社会でありながら、貧困化がすすむ日本社会の変化に対して、学校が果たす役割や教師に求められる力とは何なのかを、フロアの参加者にも加わって頂いて議論したいと考えています。



第2分科会 部落の歴史

会場

セミナー室

～「是旃陀羅」問題について

「旃陀羅」とは本来、インドのヴァルナ体制における特定の階級を示す言葉で、「存在自体が穢れていると考えられている賤民」を意味し、支配階級の立場からする政治的・社会的な差別語です。「旃陀羅」を日本の被差別民衆である「穢多」に例えて説いてきた結果、社会の差別構造の温存助長に宗教的な根拠を与えるというたましい機能を果たしてきています。「是旃陀羅」問題はその説教部分が、「被差別者にとってはやりきれないほど、心に痛みを感じる」という訴えから宗教界では課題とされてきました。分科会では、上杉聡さんを講師として「是旃陀羅」問題に至る経緯に学び、今を生きる私たちにどのような影響を与えてきたのか、一人ひとりの生き方について考える機会となればと考えて企画しました。多くの皆さんの参加をお願いします。



第3分科会 「多文化共生・フィールドワーク」

地域

中会議室、その後東九条地域

はじめに、希望の家(地域福祉センター希望の家・希望の家児童館) 所長前川修さんから朝鮮半島、日本全国各地から労働者として人々が集住した後の東九条の歴史、特に在日コリアンの今日までの歩みについて、お話を聞かせていただきます。その後、地域の方の案内で、東九条のフィールドワークを行います。「在日は生活保護率が高いから怠け者だ。」のような憎悪に基づく発言がインターネットやSNS中心に、今なお繰り返される現状がありますが、東九条では自分自身が持つ文化を大切し、互いに支え合い、豊かに生きる人々の生活に触れることが出来ます。国籍、文化、民族の違いを見据え、認め合い、尊重しあい、誰もがエンパワーでき、誰もが社会参画できる、公正な多文化共生の社会づくりについて、この分科会での講演とフィールドワークを通して整理し、理解を深めます。



※フィールドワークのお申込みは、上記QRコードのコードからお願いします。

第55回人権交流京都市研究集会事務局

〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター内
TEL (075)415-1041 FAX (075)432-4485 E-mail : info@kyoken.jp
<http://www.kyoken.jp/index.htm>